

釧路市 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

ICT は「令和の日本型学校教育」の基盤的なツールであるという前提のもと、これまでの教育と最先端の ICT を対立させるのではなく、どちらの良さも生かしたベストミックスを図りながら、誰一人取り残すことなく子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指していく。

2. GIGA 第1期の総括

本市では、全児童生徒への1人1台端末(Chromebook)の整備と高速大容量の通信ネットワーク等、授業において ICT を活用する環境が令和2年度末に整った。

各学校では、日常の授業での活用をはじめ、デジタル教科書の使用、自宅療養中や不登校の児童生徒へのオンライン授業の配信、自宅への持ち帰り等、様々な教育活動において試行錯誤を繰り返しながら、段階的に端末の利活用を進めていった。

一方で、端末の故障・破損については、導入当初の想定を大幅に上回る状況で推移しており、破損の程度が軽いものについて、応急処置を施した上で継続使用してもらうことがあった。また、ネットワークについては、一部の学校において不安定な状況が見られることがあった。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1)1人1台端末の積極的活用

故障・破損に備えた予備機を常時確保しつつ、ネットワークアセスメントにより洗い出した課題を解消し、学校ネットワークの向上を図る。

授業での端末の積極的活用を推進するため、全ての教員が不安なく ICT を活用した授業を展開できるよう、実践的な研修等を通年で展開していく。

(2)個別最適・協働的な学びの充実

デジタル・シティズンシップ教育の考え方のもと、児童生徒の情報活用能力を育成しつつ、調べ学習や発表、意見交換、理解度別の課題への取り組み等、学校において児童生徒が端末を活用する場面のさらなる充実を図る。

(3)学びの保障

端末を利用した心の健康観察により、児童生徒の心身の状況把握や教育相談を行う。また、不登校の児童生徒や、特別な支援を要する児童生徒等の実態に応じて端末を活用し、適切な支援につなげていく。